

震災復興に関するアンケート調査 報告書

平成 24 年 2 月 16 日 矢吹町

1. 調査の目的

矢吹町では、東日本大震災以前以上の発展に向けた、復旧復興の取り組みを進めるために、震災復興・まちづくりに関して、町民の意見を収集・分析し、町民の意見を反映した復興計画を策定することを目的とし、本調査を実施しました。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域・・・矢吹町内
- (2) 調査対象・・・町内在住の 20 歳以上の町民 1,000 人
- (3) 抽出方法・・・住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法・・・郵送による配布、回収
- (5) 調査期間・・・平成 24 年 1 月 13 日～2 月 3 日

3. 調査項目

項 目	内 容
地震における避難行動について	地震発生時の居場所、避難場所、避難所について
地震による被害について	被害状況、現在困っていること
主要施策について	復興ビジョンに位置付けた主要施策に対する考え
各施策について	生活再建の支援と社会生活基盤の復旧についての意見・考え
	未来を担う子どもたちの育成についての意見・考え
	地域コミュニティについての意見・考え
	産業再生に向けての取組み等についての意見・考え
	災害に強いまちづくりに向けての取組み等についての意見・考え
	今後の生活スタイルやエネルギーについての意見・考え
	原子力災害の克服についての意見・考え
基本属性	性別、年齢、家族構成、居住地区、居住形態、居住歴、職業

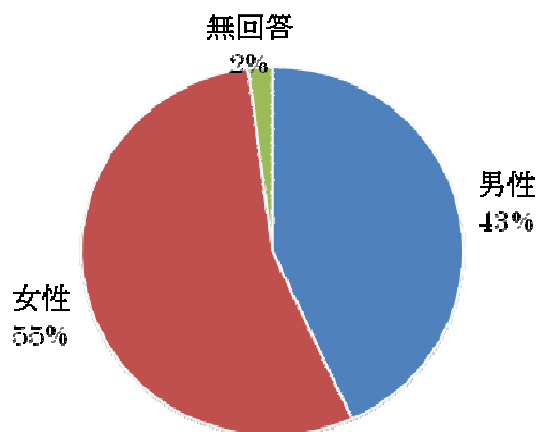
4. 回収結果

- | | |
|------------|---------|
| (1) 調査表送付数 | 1,000 票 |
| (2) 回収数 | 440 票 |
| (3) 回収率 | 44% |

5. 基本属性

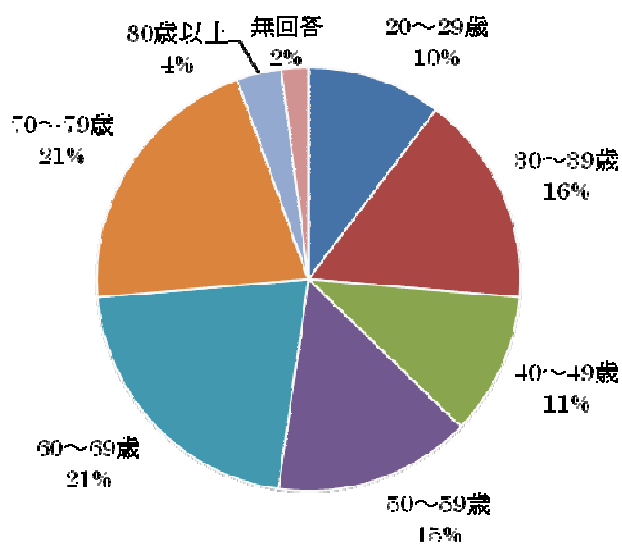
[性別]

	実数	構成比
男性	190	43.2%
女性	241	54.8%
無回答	9	2.0%
回答者総数	440	100%



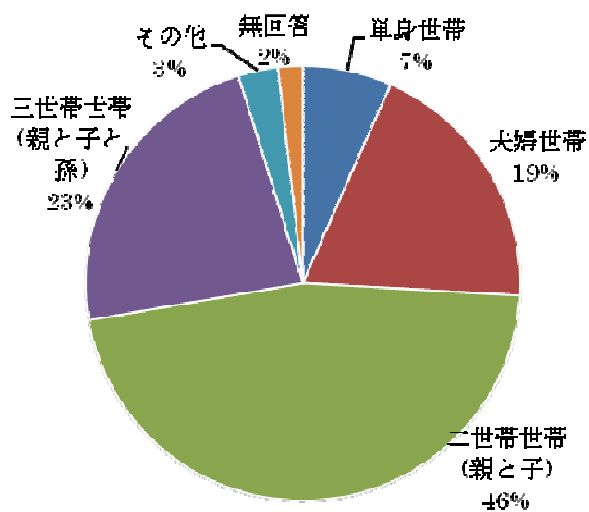
[年齢]

	実数	構成比
20～29 歳	45	10.2%
30～39 歳	71	16.1%
40～49 歳	48	10.9%
50～59 歳	66	15.0%
60～69 歳	94	21.4%
70～79 歳	92	20.9%
80 歳以上	15	3.4%
無回答	9	2.0%
回答者総数	440	100%



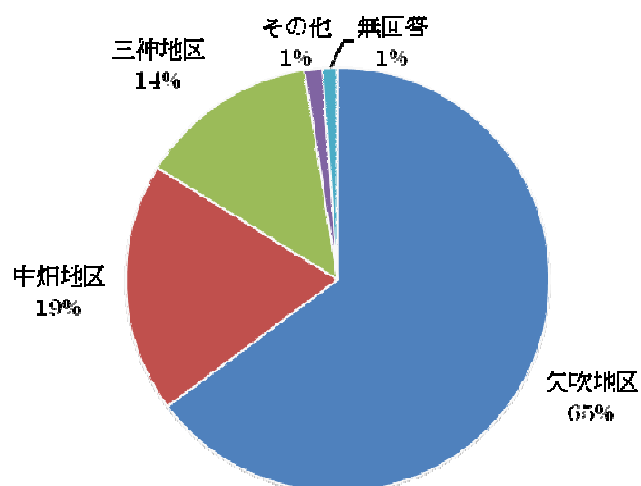
[家族構成]

	実数	構成比
単身世帯	29	6.6%
夫婦世帯	85	19.3%
二世帯(親と子)	204	46.4%
三世帯(親と子と孫)	101	23.0%
その他	13	3.0%
無回答	8	1.8%
回答者総数	440	100%



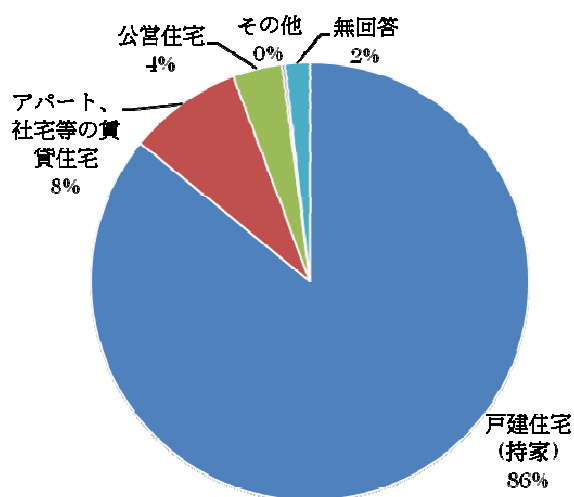
[居住地域]

	実数	構成比
矢吹地区	285	64.8%
中畑地区	84	19.1%
三神地区	60	13.6%
その他	6	1.4%
無回答	5	1.1%
回答者総数	440	100%



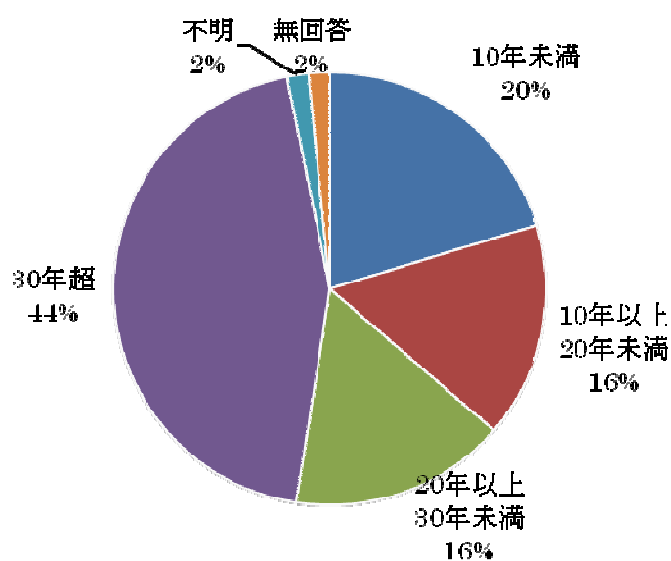
[居住形態]

	実数	構成比
戸建住宅(持家)	378	85.9%
アパート、社宅等の賃貸住宅	37	8.4%
公営住宅	16	3.6%
その他	1	0.2%
無回答	8	1.8%
回答者総数	440	100%



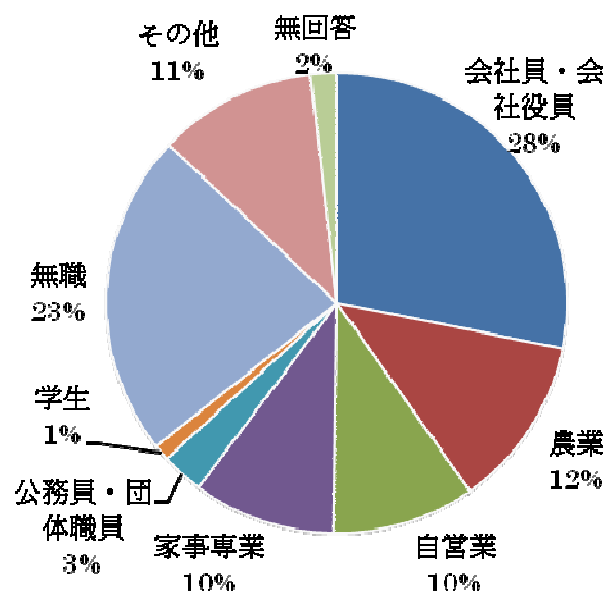
[居住歴]

	実数	構成比
10年未満	89	20.2%
10年以上20年未満	71	16.1%
20年以上30年未満	71	16.1%
30年超	195	44.3%
不明	7	1.6%
無回答	7	1.6%
回答者総数	440	100%



[職業]

	実数	構成比
会社員・会社役員	124	28.2%
農業	53	12.0%
自営業	44	10.0%
家事専業	44	10.0%
公務員・団体職員	13	3.0%
学生	5	1.1%
無職	100	22.7%
その他	49	11.1%
無回答	8	1.8%
回答者総数	440	100%

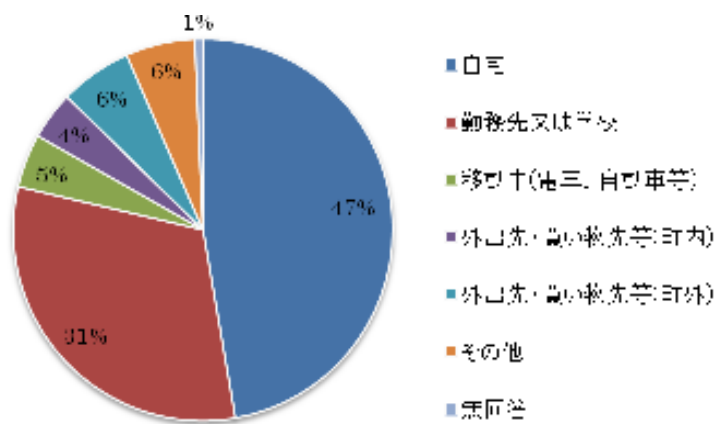


6. 単純集計 集計表

東日本大震災における避難行動について

問1. 地震発生時、あなたはどこにいらっしゃいましたか。○
は1つまで。

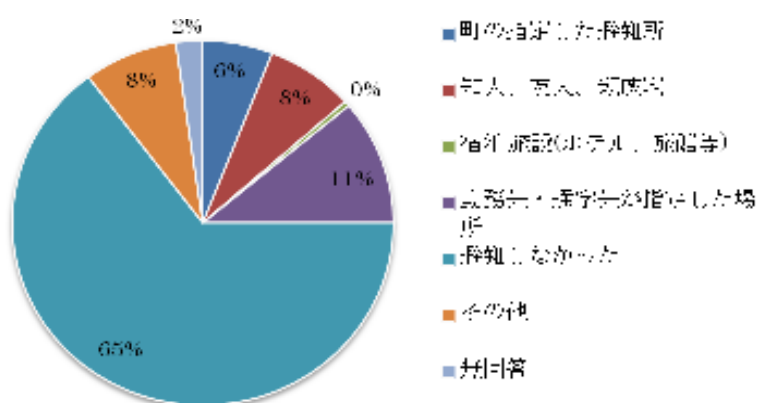
選択肢		実数	構成比
1	自宅	208	47.3%
2	勤務先又は学校	138	31.4%
3	移動中(電車、自動車等)	20	4.5%
4	外出先・買い物先等(町内)	18	4.1%
5	外出先・買い物先等(町外)	27	6.1%
6	その他	26	5.9%
	無回答	3	0.7%
	計	440	100%



平日の日中であっても、「自宅」に居た方が約半数でした。
次に多かったのが「勤務先又は学校」でした。

問 2(1). 地震発生時、あなたはどこに避難しましたか。

選択肢		実数	構成比
1	町の指定した避難所	26	5.9%
2	知人、友人、親戚宅	33	7.5%
3	宿泊施設(ホテル、旅館等)	2	0.5%
4	勤務先・通学先が指定した場所	49	11.1%
5	避難しなかった	285	64.8%
6	その他	35	8.0%
	無回答	10	2.3%
	計	440	100%



問 2(2). (1)で「1. 町の指定した避難所」と回答された方に質問します。避難所についてどのように感じましたか。○は2つまで。

選択肢		実数	構成比
1	非常時の避難所として十分である	12	27.3%
2	不十分であるがやむを得ない	11	25.0%
3	狭い	0	0.0%
4	体が休まらない	16	36.4%
5	プライバシーが守れない	5	11.4%
6	その他	0	0.0%
	計	44	100%

地震発生後も自宅に居た方が65%でした。避難所へ避難した方は6%でしたが、避難所の課題としては、「体が休まらない事」が避難された回答者26人中16人の方から挙げられました。

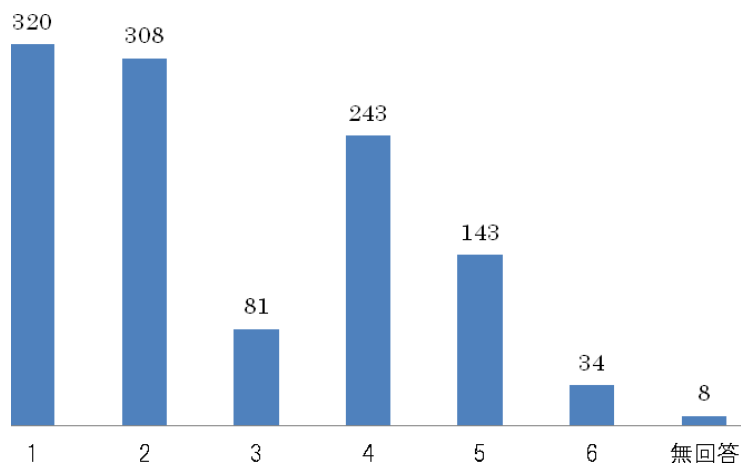
問 2(1)記載回答

自宅敷地内ビニールハウス内
病院へ付き添い
メガステ矢吹ダイソー
北海道
外に出た
離れ小屋
車
家の外(庭)
職場に出勤した
復旧作業への着手
庭
中央公民館駐車場
勤務中
車内、ハウス
町役場前
自宅の庭
事務所・店舗
病院の指定場所
原発がおきてから子供の所(東京)へ行った。
駐車場(役場の隣)
中国
買い物をして帰る途中、車の中
建物の外
実家(矢吹)
医院の駐車場
白河文化センター外
入院先へ戻った
近所のガレージ
家の外

地震による被害について

問3. 今回の地震であなたが受けた被害の具体的状況を教えてください。○はいくつでも可。

	選択肢	実数	構成比
1	居住する家屋が損壊した	320	28.1%
2	家財道具が損壊した	308	27.1%
3	敷地地盤が損壊した	81	7.1%
4	自宅周辺の道路、地盤、隣家が損壊した	243	21.4%
5	自宅周辺の上下水道が損壊した	143	12.6%
6	その他	34	3.0%
	無回答	8	0.7%
	計	1137	100%



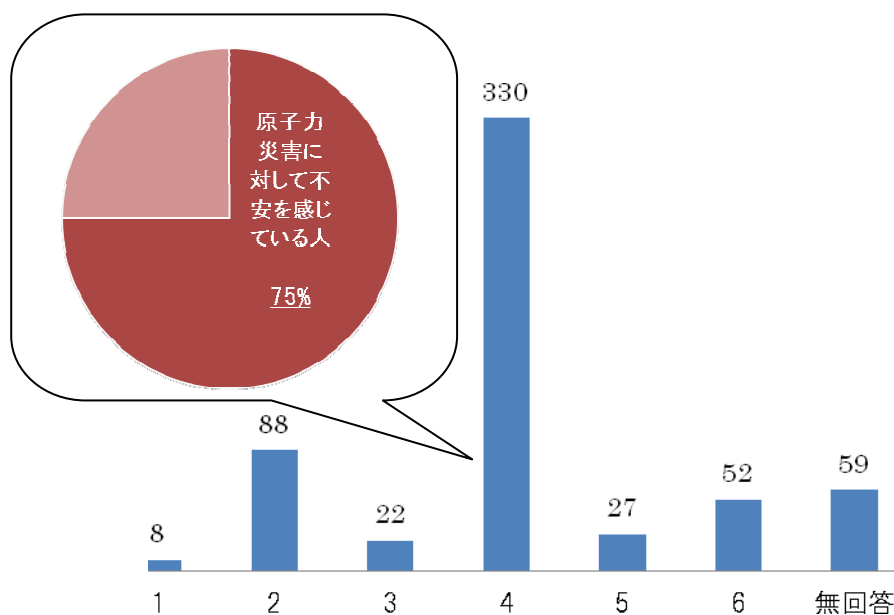
無回答を除く 432 人に何らかの被害があったほか、回答者 440 人の 73%にあたる 320 人に家屋の被害があったことが分かりました。また、18.4%にあたる 81 人には敷地地盤の損壊もあったことが示されました。

問3 記述回答

- ・ブロック塀、石塀(7 件)
- ・作業小屋損壊(4 件)
- ・蔵(4 件)
- ・農地(2 件)
- ・温水器破損(2 件)
- ・店舗(2 件)
- ・農舎の壁一部損壊
- ・灯油のタンクが倒れた
- ・断水、壁に亀裂
- ・風呂にひびが入る
- ・自家水道管破裂
- ・アスコン舗装一部に隆起部あり、10ヶ月経過するが補修なし。
- ・自宅の土手破損した
- ・電線が道路に下がって落ちた
- ・車庫の車に物置が倒れ、車のランプが割れた。
- ・仕事を休まなければならなかった
- ・水が2週間出なかった。
- ・車庫、あづま屋倒壊
- ・町道に面した法面が田んぼへ崩れる！
- ・身体の変化
- ・ライフラインの不通
- ・物置損壊

問4. 地震による被害のために、今あなたが困っていることについてお尋ねします。○はいくつでも可。

選択肢		実数	構成比
1	家に住むことができず、借家や親類の家に住んでいる。	8	1.4%
2	損壊を受けたが、そのまま住んでいて日常生活が非常に不便である。	88	15.0%
3	自宅と道路に段差が出来て出入りに不自由している。	22	3.8%
4	原子力災害の影響により、精神的不安を感じている。	330	56.3%
5	困っていることの相談先がわからない。	27	4.6%
6	その他	52	8.9%
	無回答	59	10.1%
	計	586	100%



「6. その他」の意見として、住居や店舗、農地の損壊による修繕費用に対する補助が少ない事や業者の不足による修繕の遅れが挙げられました。

また、回答者 440 人中 330 人(75%)が原子力災害について精神的不安があると回答しています。原子力災害による放射能問題が最も関心が高い分野であることが再確認されました。

問 4 記載回答

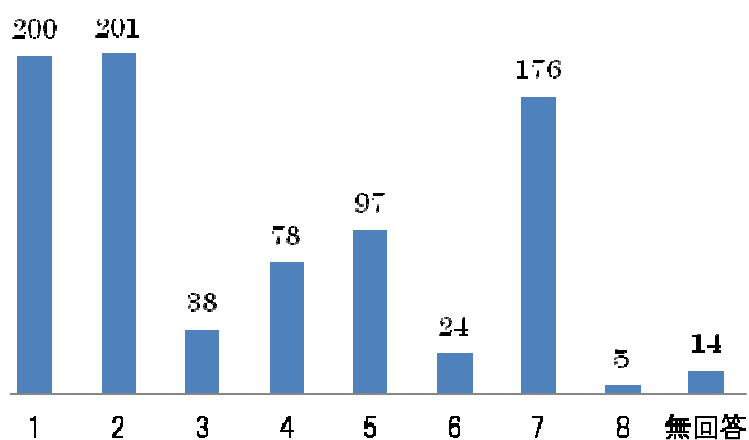
- ・ 復旧工事が進まない
- ・ 屋根がまだ直ってないのでないのていつ雨が漏るか不安である
- ・ 修理しながら住んでいる
- ・ 家屋等が一部損壊だが直す資金がない。一部損壊にも何か支援が要。
- ・ 水漏れや壁にひびが入ったが、アパートなので自分では直せない。
- ・ 部屋の中がひびだらけ、少しの地震でも揺れが凄い。
- ・ 対策窓口がわからない！
- ・ 隣の境界線の事で困っている（杭がない）
- ・ 不便ではないが、まだ家屋の補修が出来ないでいる
- ・ 一部損壊の判定に幅があり過ぎ、限りなく半壊に近いのに義援金の配付なし、一部損壊でも改修に数百万かかるのに、資金繰りに困っています。
- ・ 困っていない、どうにかやれている。
- ・ ドア、ふすま等に隙間が出来た。瓦屋根をトタン屋根に改修し費用がかさんだ。
- ・ 鍵が閉まらない、隙間風
- ・ 家が狭い
- ・ 特に無い

他

復興ビジョンに位置付けた施策について

問5. 矢吹町復興ビジョンに位置付けられた主要施策のうち、どの分野が重要であると考えますか。最も重要であると思うものから2つまでに○。

	選択肢	実数	構成比
1	生活再建の支援と社会生活基盤の復旧	200	24.0%
2	未来を担う子どもたちの育成	201	24.1%
3	支えあいによる地域コミュニティの再構築	38	4.6%
4	産業基盤の再生	78	9.4%
5	災害に強いまちづくり	97	11.6%
6	新たなライフスタイルへの転換	24	2.9%
7	原子力災害の克服	176	21.1%
8	その他	5	0.6%
	無回答	14	1.7%
	計	833	100%



問4の結果からもわかる通り、原子力災害に関連する分野について関心が高い事が示されました。また、生活基盤や社会基盤の再生についても関心が高い事が示されました。

一方、地域コミュニティの再構築と環境問題・エネルギー問題については、関心が低いことが示されました。

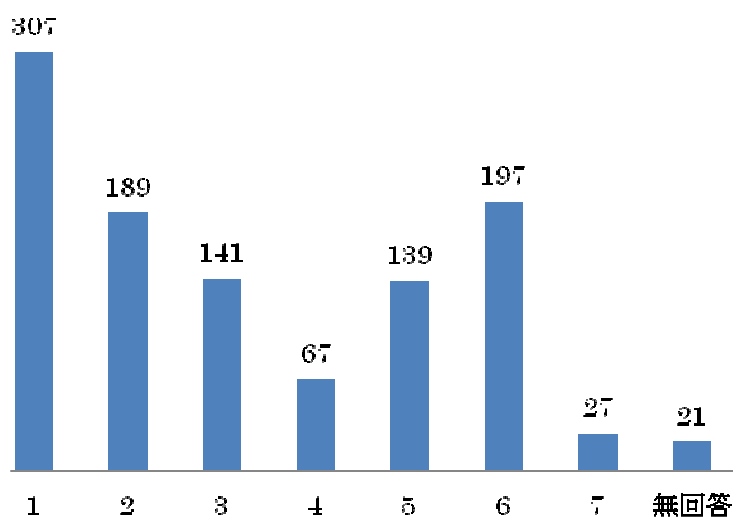
問5 記載回答

- ・一日町内の整備⇒現在ある店を一区内にまとめ、メガステージと違った味のショッピングスペースを造る。⇒土地の買い上げ代、貸地提供等で矢吹駅周辺を思い切って整備する。⇒新地飲み屋街なども含めたショッピングセンターをつくる。
- ・耐震水道管によりライフラインの確保（3日程度での復旧が出来る保守しやすい設備）
- ・災害に強いまちづくりの実現を図る為の財源確保。無駄な歳出の削減（仮）町づくり税等で税收を計る。

各施策について質問します。

問6. 生活再建の支援と社会生活基盤の復旧について、重要である・必要であると思う事業は何ですか？〇はいくつでも可。

	選択肢	実数	構成比
1	生活再建のための経済的支援	307	28.2%
2	居住環境の復旧事業	189	17.4%
3	被災者支援相談事業	141	13.0%
4	公共施設の復旧事業	67	6.2%
5	震災廃棄物の処理事業	139	12.8%
6	雇用の確保	197	18.1%
7	その他	27	2.5%
	無回答	21	1.9%
	計	1088	100%



■「④公共施設の復旧事業」について

特にどの公共施設の復旧について必要だと思いますか？

〈自由記載〉

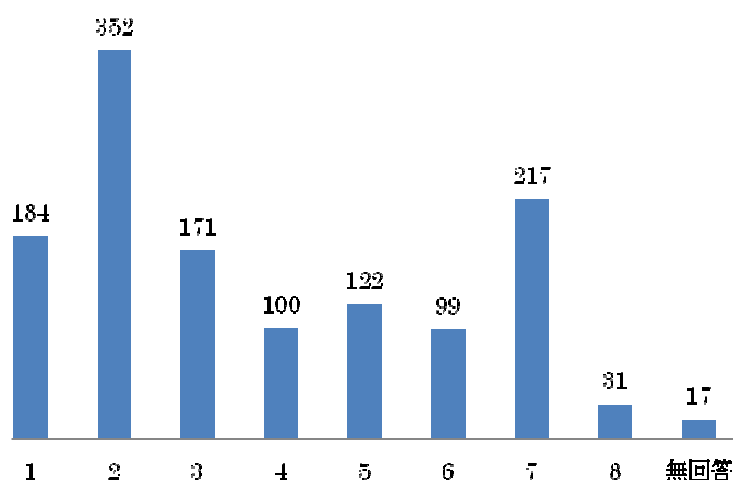
教育施設	7
道路	7
農業施設	4
社会教育施設	6
保健福祉施設	2
避難所	1
公共施設以外	2

問6 記載回答

- ・中央公民館の利用者が多く、月2回だけでは足りないの
で福祉会館でカバーしてき
た分不足していると思う。
- ・各区のコミュニティセンタ
ーは利用料が高い。(1日
2000円)
- ・震災前の公共施設の利活用
度の調査・把握し、利用率の
少ない施設については廃止
し、新施設の事業について要
望を聞く事が大事だと思う。
(例：町行政の支所設置 中
畑三神支所等)
- ・大池公園のもっと充実した
整備、復旧。
- ・放射能汚染を取り除く事業
- ・矢吹町は農家が多いので、農
業の復旧復興が大切。
- ・働くところが不足している。
町民の雇用で町を活性化し
てほしい。
- ・家屋損壊についての対応、一
部損壊、半壊、全壊などの判
定による支援に納得がいき
ません。例え一部損壊であっ
ても、その負担は絶大なもの
であり、想定外の出費とな
る。もう少しきめ細かい対応
があっても良いのではない
のだろうか？

問7. 未来を担う子どもたちの育成のために、重要である・必要であると思うことは何ですか？○はいくつでも可。

選択肢		実数	構成比
1	子育てに関する町からの情報提供の充実	184	14.2%
2	子育て環境の放射線量低減化、除染	352	27.2%
3	地域ぐるみでの子育て体制の強化	171	13.2%
4	家庭教育の充実	100	7.7%
5	学力の向上	122	9.4%
6	国際的な感覚の習得	99	7.7%
7	被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア	217	16.8%
8	その他	31	2.4%
	無回答	17	1.3%
	計	1293	100%



子どもの分野においても、原子力災害についての対策等への関心が高いことが示されました。実際に不安を感じている人(330人)よりも多い、352人(80%)の方が「子育て環境の放射線量低減化、除染」を必要と考えていることが分かりました。

次に重要であるとの意見が多かったのは「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」でした。

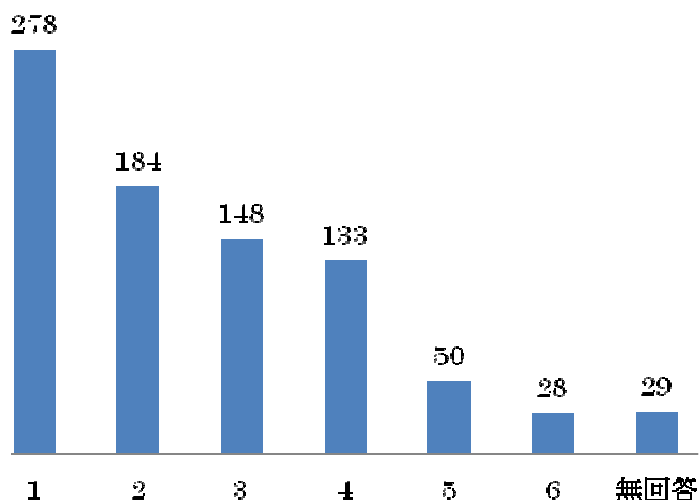
問7 記載回答

- ・子どもがいる家庭への不安解消・医療面での保障が必要になってくると思う。
- ・食に対する安全性 給食…本当に大丈夫ですか？
- ・通学路の整備
- ・今の子供の血液検査をしてほしい。後に県で実施した場合のものさしに(めやす)となる。
- ・健康追跡調査
- ・安心して外で遊べないので室内で遊ぶ所があるといいと思う。
- ・早期の子供達の甲状腺の検査を矢吹町でも行えるようにしてほしい。
- ・原子力災害の継続的な身体ケア医療の充実
- ・子供に直接関わる親の教養向上⇒子供の成長力向上
- ・子供達や保護者が安心して学校生活できる様に適切な情報、放射線等は特に迅速に行いPTA、ボランティア等と協力して校舎周辺等の除染作業を行い地域ぐるみで子育て体制を取り、子供が安心できる環境を作ってあげたいと思います。
- ・高校生、中学生の自転車通学のマナーの悪い事は目に余る時があります。学校はもちろんですが家庭でも思いやりの教育が必要だと思います。

他

問8. 東日本大震災、町民同士あるいは他の誰かとの支えあい・助け合いにより、震災を乗り切ることが出来ました。近年薄くなりつつある地域コミュニティの再構築について、重要である・必要であると思う事業は何ですか？〇はいくつでも可。

	選択肢	実数	構成比
1	行政区自治組織の支援事業	278	32.7%
2	ボランティア団体の支援事業	184	21.6%
3	町の行事・お祭り等の開催	148	17.4%
4	公園やコミュニティプラザ等交流スペースの設置	133	15.6%
5	震災復興シンボルの作成	50	5.9%
6	その他	28	3.3%
	無回答	29	3.4%
	計	850	100%



震災発生時も組織として力が発揮された行政区及びボランティア団体に対しての支援が重要であるとの意見が多く挙げられました。また、「6. その他」で挙げられた意見の中にも、住民同士の交流する場や機会の提供についての提案等がありました。

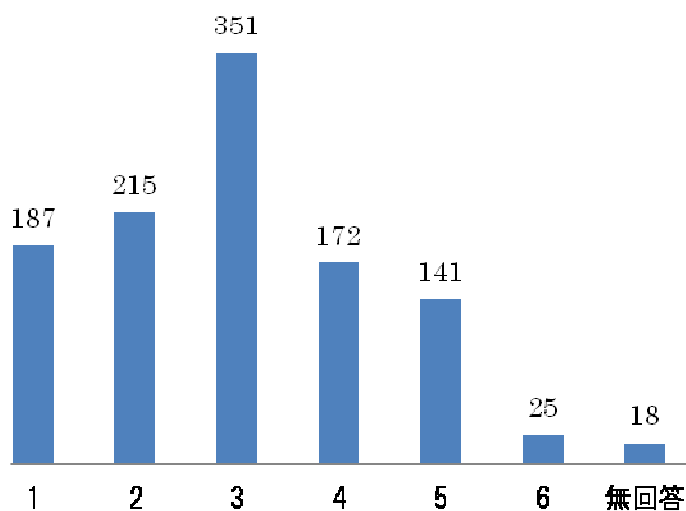
問 8 記載回答

- ・ 区対抗、班対抗等の行事
- ・ 町民が共同で楽しく興味のある事を一緒に行い、コミュニティを拡大していく事で繋がりは生まれる。町として、場づくりに取り組んでほしい。
- ・ 消防団への育成、助成、強化
- ・ お祭りは好きです。ボランティア事業も具体的に活動内容を明記した方が「ボランティア」と一言でくるよりいいと思います。
- ・ 町民の一番はあいさつ、一ヶ月に一回位町のクリーン、草刈り
- ・ 最近は、個人情報重要視して他人の干渉をしない風潮が見られます。これでは、災害時に協働する事もままならずです。町民同士、地域の人達と交流しあう体制をつくるが大切だと思います。

他

問9. 震災により大きなダメージを受けている産業の再生のために重要である・必要であると思う事業は何ですか？○はいくつでも可。

	選択肢	実数	構成比
1	事業者への経済的支援	187	16.9%
2	商店街の復旧および活性化事業	215	19.4%
3	農産物の安全性検査・PR 事業	351	31.7%
4	農地や工業用地のインフラ復旧事業	172	15.5%
5	企業の誘致	141	12.7%
6	その他	25	2.3%
	無回答	18	1.6%
	計	1109	100%



問9においても、原子力災害に関連する「農産物の安全性検査・PR 事業」への関心の高さが示されました。

また、商店街をはじめとする、町の産業の活性化についても多くの意見がありました。農商工業を支援することにより、町民の生活の安定や雇用の創出を図ることが必要とされていることが分かりました。

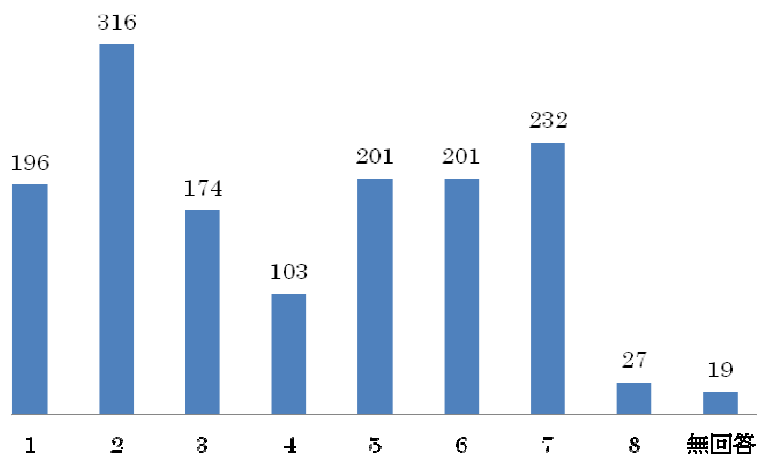
問9 記載回答

- ・ 食べ物を測る測定器が欲しい
- ・ 新たな商店街(震災復興商店街)を駅前再開発的な手法で、シャッター街が歯欠け街になったままでは実に寂しい、駅前とは限らず町中の農協辺りに。
- ・ 農産物の地産地消の奨励
- ・ 施設園芸の復興、矢吹ブランド化の推進
- ・ 矢吹町内の道路は近隣町村に比べ狭く歩道が無い。企業の誘致の第一条件は道路の整備と大型工業団地の造成が必要と思います。
- ・ 食品の安全の確保、バロメーターを明確に
- ・ 中心商店街空き店舗がないように人々が集まる町づくりを進める。
- ・ 高齢者が商店街から遠い地域で買い物、弱者となってしまう方のサポート策
- ・ 若者が安心して働ける企業の誘致

他

問10. 災害に強いまちづくりのために、重要である・必要であると思う事業は何ですか？〇はいくつでも可。

選択肢		実数	構成比
1	地域防災計画など、防災体制の抜本的見直し	196	13.3%
2	災害発生時に実用性のある情報伝達手段の確保	316	21.5%
3	建築物耐震化の推進	174	11.8%
4	土地利用の見直し	103	7.0%
5	交通基盤の整備(道路の整備)	201	13.7%
6	災害時における高齢者へのサポート体制の充実	201	13.7%
7	学校や地域における防災教育、防災体制の強化	232	15.8%
8	その他	27	1.8%
	無回答	19	1.3%
計		1469	100%



災害発生時の情報提供手段の確保について、強化が必要であるとの意見が多い事がわかりました。「6. その他」においても、防災無線の改善について多く挙げられました。

問5において、災害の分野についての関心の高さは7つの分野中4番目でしたが、各選択肢への票数は多く、各種取り組みが重要であると考えられていることがわかりました。

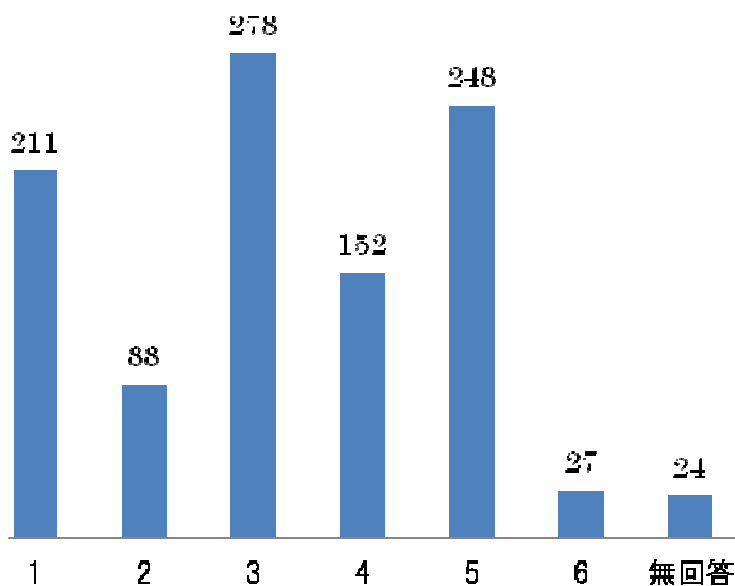
問10 記載回答

- ・旧矢吹地区、旧4号線(町中)の道幅が狭い。電柱等の障害物が多い。
- ・災害に強い町づくりは、まだ議論する場合ではない。除染してきれいになるまでいつまで？この汚染された環境に住み続けていれば確実に体を傷付けられていくでしょう。個人で避難されている方、これから避難を考えている方にお金の支援をしてほしい。
- ・防災無線の改善。緊急時の連絡方法の確立。町外での仕事なので災害発生時に矢吹町の情報が入らない。
- ・町民全体の防災に関する意識の強化
- ・災害時、町独自での対応には限界があると思います。近隣市町村との防災体制が必要。矢吹町は岩瀬郡、石川郡とも防災計画を推進すべきです。
- ・避難場所の再確認と耐震化を図る。数多くする。
- ・体の不自由な人は災害に対応出来ません。そんな時どうしたらよいのでしょうか。

他

問11. 震災発生時、ガソリンや灯油、電気が不足したことにより、日常生活に大きな支障がでました。そこで、現在の生活スタイルを見直し、新たな生活スタイルへの転換に向けて、必要であると思う事業は何ですか？○はいくつでも可。

	選択肢	実数	構成比
1	リサイクル等省資源化への取組み	211	20.5%
2	家庭菜園や郷土料理の推進	88	8.6%
3	薪ストーブや太陽光発電等再生可能エネルギー導入の支援	278	27.0%
4	地産地消の取組み	152	14.8%
5	原子力代替エネルギー産業の誘致	248	24.1%
6	その他	27	2.6%
	無回答	24	2.3%
	計	1028	100%



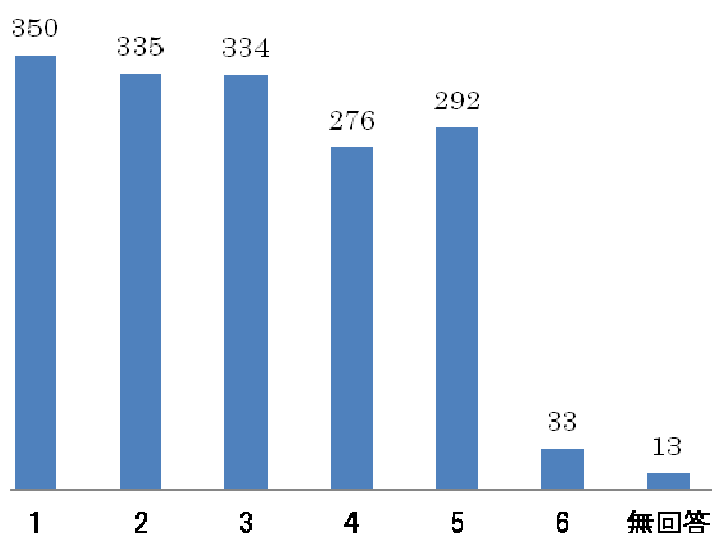
原子力発電所の事故により、代替エネルギーへの関心が高まっていることが分かりました。一方、ライフスタイルの転換については、反対する意見も挙げられました。

問 11 記載回答

- ・ 支障があったのは水道とガソリンであった。耐震水道事業及び、多ルート化により破損か所の迂回が出来る設計施工とする。ガソリン車以外の PHV・EV 車の充電設備の設置
- ・ Hybrid車への乗り換えを推進し、町からも少額の補助金を支援する。
- ・ 生活スタイルを見直すと言うし、これだけ情報社会になって電気がなければ生活出来ない状況の中で、生活スタイルで変えるのは困難をきたすものと考えられる。当面、原子力エネルギーに変わるエネルギー(水素とかガス)の産業の誘致が望ましい。
- ・ 昔ながらの生活の見直しも時には必要かもしれないと思う(湯たんぽetc) 自然エネルギーの利用等 水～各家庭や地域での井戸、ポンプも良いと思う。
- ・ 車が使用できなかった時の為に小型リヤカータイプの物を貸し出しが出来るよう災害が起きた時の為、準備をして欲しい。
- ・ 近隣市町村の連携のもと、各種エネルギーの備蓄の工夫が必要である。
- ・ ライフスタイルの推進や啓蒙では何も起こらない。町を興して、大々的に取り組む必要がある。

問12. 原子力災害の克服について、重要である・必要であると思う事業は何ですか？○はいくつでも可。

選択肢		実数	構成比
1	放射線量の低減、除染	350	21.4%
2	農作物等の放射能測定検査	335	20.5%
3	将来にわたる健康管理	334	20.5%
4	風評被害対策	276	16.9%
5	原子力災害への損害賠償請求への支援	292	17.9%
6	その他	33	2.0%
	無回答	13	0.8%
	計	1633	100%



原子力災害の分野については、最も関心が高い事が複数の設問の結果より示されています。この分野の選択肢についても、すべてにおいて高い票数がありました。「6. その他」で記載頂いた意見で多かったのは、町内の放射線量測定の充実と情報提供、ホットスポットの除染、損害賠償についてでした。

問 12 記載回答

- ・放射能測定検査の充実化、より速く結果を通知できる様にしてもらいたい。
- ・町内のホットスポットの特定、公表すべき
- ・ただ恐れているだけでは解決にならない。放射線についてもっと広く内容を説明し理解を深くする事が必要だと思う。
- ・特に乳幼児の継続的健康管理。長期にわたって。
- ・お店などに置いてある農作物への測定検査の表示が必要であると思う。
- ・放射性物質除染後に出た土、草、木々の枝等の捨て場(仮置き場)をどうするのか、国の方針がいつまでにできるのか全く分からない。これを最優先に決めるべきではないかと思います。
- ・原子力災害賠償請求を県全域にしないと納得できない。
- ・ガンなどの検診無料化を定期的実施してほしい。

他